

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2008.7.6 No.4

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 夏の森

夏の日差しが眩しい季節になってきました。草丈のある、ハンゴンソウ、ヨブスマソウ、チシマアザミが目につきます。森の奥からキジバトやツツドリ、すぐ近くからウグイスやホオジロやヤブサメ等の鳴き声が聞こえてきます。森の中は日差しも遮られ暑さが緩和されます。

### ◆バイケイソウ

花は終わってしまいましたが、草丈のあるバイケイソウの姿を見る事ができます。ユリ科で多年草のこの草本は、花が梅（花弁は6枚なので、梅の花とは違いますが全体的なイメージなのでしょうか）、葉がケイ（葉が広くしわのあるケイラン）に似るとのことから命名されています。

根茎は血圧降下剤として用いられましたが、催吐作用があり毒性があるので現在は使われていません。また東雲草（しののめ草）の名で殺虫剤として使われた事もあります。

### ◆シナノキ

シナノキの花が咲いています。この花から良質の蜂蜜「シナミツ」をミツバチが集めます。名の由来については、牧野植物図鑑には「皮がシナシナすることから、またその皮が白いのシロからきたなどともいうが、元来シナは「結ぶ、しばる、くくる」という意味のアイヌ語からきたもの」と記述されています。内皮の繊維は強靭で物を縛ったり結ぶ素材として優れていて、アイヌの人たちは繊維をとり布や細を作ったそうです。

### ◆フクロウ

6月の中旬、公園内でフクロウの雛とその親が観察されました。北海道に分布するのは亞種のエゾフクロウとされていて、本州以南の他の亞種にくらべて白っぽいのが特徴です。

フクロウ科の鳥は日本には11種が記録されていますが、他の鳥と違い人間のように目が全面に2つ並んでいるため人気の高い鳥です。

公園内で雛と親鳥が見られた場所には沢山の人達が写真を撮るために集まりました。その中には散策路を外れて入ってはいけない場所でカメラを構える人達もいました。これらの行為はフクロウにとって大きなストレスとなっていて、親鳥が雛を放棄する場合もあると言われています。

よい写真を撮ることのみに夢中になり、鳥や自然に心のとどかぬ自然観察は本末転倒だと思うのです。

### 観察会の予定

#### ・夏の森の観察会

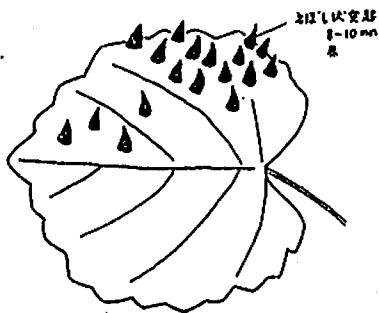
8月7日（木） 10:15~12:30 集合場所 野幌森林公園 開拓の村

集合場所が「開拓の村」の入り口です。従って、観察コースの一部が新コースになりますので、新しい発見があるかも知れません。夏の森は陽の光りを樹木の葉が遮ってくれますので盛夏の森をゆっくりと観察しましょう。

## 虫こぶ（虫えい）

ヤマブドウの葉の一枚に、赤い円錐形の突起物がツツツツとついていました。色や形こそちがいますが、いろいろな木や草の葉や茎にこのようなこぶ状のものがついているのを目にはします。このこぶの中には虫が見つかることが多く、そのためこれを虫こぶとか虫えいと呼んでいます。この虫こぶ（虫えい）ができる理由は、葉や茎に虫が寄生すると植物の細胞や組織が刺激され異常に増殖・肥大することによると説明されています。この刺激の実態は、虫の産卵に伴う分泌物の場合もあるし、幼虫の摂食に伴う刺激の場合もあり、刺激の実態は現在も詳らかではありません。

虫こぶ（虫えい）の命名法にはおもしろいルールがあります。  
(寄主植物名) + (形成される部分) + (形態的特徴) + (フシ)  
ちなみにヤマブドウの虫こぶ（虫えい）はヤマブドウハトックリフシといいます。



## セイヨウオオマルハナバチ

野の花などにハチの仲間が蜜を吸ったり、花粉を自身の後脚につけている姿をよく見ることができます。ミツバチ科のハチは蜜や花粉を集め行動をしますが、そのなかにマルハナバチ属が含まれます。社会生活をしていて、形はミツバチに似ていますが、大きくて肥って、全体が黄褐色の長毛で覆われ、腹に黒帯があるのが一般的な特徴です。北海道には11種の在来のマルハナバチが生息しているといいますが、今問題になっているのは外来種のセイヨウオオマルハナバチと言われる種で公園内でも目にすることができます。

このハチの原産地はヨーロッパ（オランダ・ベルギー）と言われ、トマトの受粉用に大量に輸入されました。ビニールハウスから逃げ出するものもいます。1996年、日高にて逃げ出した個体の自然巣が発見され、以後各地で確認されるようになりました。習性は土中で営巣して大きなコロニーを作り、新女王が越冬します。

このようにセイヨウオオマルハナバチが野生化し繁殖すると、餌や巣の競合により在来種のマルハナバチが駆逐されたり、在来マルハナバチに受粉を依存する在来植物が減少するなどの心配があります。そこで今、このハチの監視や捕獲活動が進められています。

セイヨウオオマルハナバチと在来種を見分ける最大の特徴は、黒と黄色の縞模様で「真っ白なお尻」をしていることです。

## 地球環境用語

### カーボンオフセット

二酸化炭素排出を抑えるには化石燃料に頼る生活を見直すことが一番ですが、排出量をゼロにはできません。日常生活で必ず出てしまう二酸化炭素を吸収する木を育てることで、出てしまった二酸化炭素（カーボン）を埋め合わせ（オフセット）しようとするのをカーボンオフセットと言います。

排出した二酸化炭素を森林に一時的に貯蔵してもらう森林を創ることで温暖化の歴止めをかける一つの手段になります。